

吉野川交流推進会議のあゆみ

～ 当会議は2018年に創立20周年を迎えます ～

吉野川交流推進会議は

日本を代表する河川である
四国三郎・吉野川の魅力を高めることと
川を通じた交流を深めることを
目的として活動を行っています

吉野川交流推進会議は、
吉野川流域の100を超える
企業や団体及び行政機関の支援を受けて
運営を行っています



主な活動の軌跡

1997年10月	流域住民の参加のもと「吉野川新交流プラン(国土交通省・徳島県)」が策定される。
1998年 5月	プラン策定メンバーのうち27名が発起人となり、「吉野川交流推進会議」の設立を呼びかける。
7月	吉野川交流推進会議が発足する。48団体・企業、学識経験者等8名、36行政機関でスタートする。
1999年 7月	吉野川交流推進会議を事務局として、「アドプト・プログラム吉野川」を開始する。
2000年 8月	第1回吉野川上流親子探検隊を開催する。
2002年 3月	「アドプト・プログラム吉野川」参加団体数が100を数え、記念の調印式を行う。
12月	吉野川交流推進会議のシンボルマークを決定する。
2003年 3月	世界水フォーラム「水のEXPO」に出展し、「アドプト・プログラム吉野川」をPRする。
2004年 1月	5周年を記念して、機関誌「四国三郎 吉野川」総集編を発行する。
2006年	筑後川との交流が始まる。
2008年 3月	機関誌「四国三郎 吉野川」の10周年記念号を発行する。
2011年10月	福岡県久留米市において三兄弟河川交流記念植樹を行う。
2012年 2月	「四季彩マラソンロード」が始まる。NPO法人 蜂須賀桜と武家屋敷の会の協力を得て、初の蜂須賀桜の植樹を行う。
9月	利根川、筑後川、吉野川の代表者が集まり、日本三大河川の兄弟縁組を、徳島市において締結する。
10月	茨城県取手市において開催された「三河川兄弟縁組記念交流会」に参加し、三大河川交流が本格化する。
2013年	「まるごと吉野川 “魅力再発見” 講座」を開始する。
2015年 8月	吉野川市において三大河川シンポジウムを開催する。
2016年 8月	東みよし町において三大河川シンポジウムを開催する。
2017年 8月	美馬市において三大河川シンポジウムを開催する。

交流事業

アドプト・プログラム吉野川

ボランティアによる清掃・美化制度「アドプト・プログラム吉野川」を実施しています。平成11年に始まり、今では130を超える団体・企業が参加しています。7月第1日曜の一斉清掃には、河川敷がアドプト参加者でいっぱいになります。



子どもを対象とした体験事業

親子を対象に、ダム見学やカヌー体験、川魚観察、水難事故防止講習会などを行う「交流体験 in よしのがわ」を実施。将来を担う子ども達に吉野川への理解・関心を高めてもらおうと、水生生物調査、吉野川現地(フィールド)講座なども行っています。



三大河川交流

日本三大暴れ川で名高い坂東太郎(利根川)、筑紫次郎(筑後川)、四国三郎(吉野川)は“兄弟縁組”を締結し、互いに訪問し合い、意見や情報の交換を行うなど、川を通じた交流を深めています。



情報発信事業

機関誌「四国三郎 吉野川」

吉野川の歴史、文化、当会議の事業など情報満載の機関誌を年1回発行。会員に配付するほか、各種イベントでも配布し、PRに努めています。



イベント等でのPR

さまざまなイベントなどで写真展やパネル展、機関誌の配布を行い、吉野川の魅力をPRしています。



ホームページの運営

ホームページを使って、全国に吉野川の良さや、当会議が行うイベント情報などを発信しています。



<http://www.yoshinogawa.org/>